

# 語り聴かせとは何か

矢口裕康

保育の世界では、紙芝居・絵本を子ども達に届ける行為を、「読み聞かせ」とよんでいる。この読むを語る、聞くを聴くへと高めてゆくことで、読み聞かせを語り聴かせへを本考では提言したい。「語り聴かせ」については、かつて、園とは家庭をむすぶ『げん・き』No.44「特集 聞く力は心の教育・学力の基礎」にて、「読み聞かせから語り聴かせへ・宮崎からの報告」で提起した。本考では、授業をとおして、このテーマを具体化するための試みを三点とりあげ、その一端をまとめてみたししたいである。

## 1 観聴きする学生

一〇〇五年六月十五日、児童文学（保育科1年）九回目の授業だった。大型絵ばなし『おおいみえるかい』（ごみたろう作）を、学生に観聴きしてもらった。「観聴き」、私の造語である。きき手としてしっかりと観、じっくりと聴き、心を傾け、体丸ごとで、聞くではなく聞く姿をとっている。聞くと聞くには  
聞く 音声を耳にうけ、自然にきこえてくる行為  
聴く きく意志があつて、耳をたてて、注意して、音声を十分にききとること  
の違がある。つまり、傾聴の姿勢である。また観るは、「観感興

起」（目に見、心に感じ、感動して奮起すること）へとながるような姿をである。これらからの「観聴き」である。私は授業中、絵本や紙芝居を語り聴かせ、その後「観聴きした上で、自分の今現在の思い・感じを自分なりに表現してみよう」と提示し、まとめてもらっている。学生時代、子どもにとつての佳き聴き手へと形成しつづける切掛けを、本人達がつかむことを授業をとおして一つひとつ具体化した上で、子どもと出会ってほしいと思っている。

さて、『おおいみえるかい』観聴き後、こんな感想をもらつた。「前回も表紙はみていたのに、ありませんが全くわかりませんでした。

でも、だんだんと絵が大きくわかりやすくなるにつれて、目も耳も体も吸い込まれ、向き合つていきました。紙しばいやえほんは、いつも何らかのストーリーがあるという風に考えていたけど、この『おおいみえるかい』のように、単純明快な内容のほうが、子どもには良いと思いました。私（現在18才）の人間が『おもしろい』『かわいい』『またよんでも!!』と思うのですから、なおさら子どもたちをドキドキさせるでしょう。子どもにすてきなおはなしと出会わせるためにも、このキーワードを活用すべきだと思います。今まで生きて来て、No.1の大型絵ばなし『おおいみえるかい』になりました。とってもすてきなおはなしです』大型えほなしは、フレベル館出版の模造紙大の紙芝居と同じように表に画、裏に物語が書

かれている作品である。この学生は、同じ授業記録プリントの中に、次のような授業の感想も書いてくれた。「今日は、本当にすてきなおはなしと出合えました。私は今まで、一番好きなえほんとか心に残っているおはなしというものはありませんでした。小さい頃は、両親が共働きで忙しかったのもあり、あまりえほんに触れたことがなかつたからです。でも、全くそのことは気にしていないし、それが普通だつたから、今日、すてきなおはなしに出合うということができたのだと思つています。だから、子どもにはむりやりえほんや紙しばいを語る必要はないのではと思ひます。その子どもたち一人一人に、私のように生きて18年目ですてきなおはなしに出合うことだつてあります。つまり、一人一人の出合う時間はちがうということです。私がえらんだおはなしで、すてきな出合いをしてくれるのもうれしいけれど、出合える時間を待つのも大切だと思います。世界の子ども・若者・大人・老人すべてに出会いの時間が訪れてほしいです」

まさに一人ひとり、人によつて出合う時間、場面は違うのだから、出会える時間を待つことも大切かつ必要なことである。今、大人となりつつある学生達にとつても、子どもの中を流れる時間をみきわめながら、「待つ」姿勢をもちたいものである。そして、世界のすべての子ども・大人・若者・老人に、それぞれの違う出会いが訪れるような助力・助言ができる一人となりたいものである。

教師は、日常的になりつつある授業の流れの中で、ふと、このようない文を書いてくれる学生と出会わせてもらえる仕事だと、実感した一枚のプリントであつた。以下、

- ・聴く力を育む
- ・「桃太郎」から語り聽かせへ

- ・「ねずみの嫁入」から語り聽かせを
- ・『アフリカのふくふく』を語るために
- の順で、自論を展開してみたい。

## 2 聽く力を育む

最近、学生の「聴く力」の衰えを感じている。さて、どうしたら聴く力をと思って、授業の導入に、「なぞなぞなあーに」をこころみて、学生の聴く耳を傾けてもらつてはいる。

### スウェーデンの謎々に

「耳がなくともきこえます

口がなくともはなせます

どこのお国くにのことばでも  
あつというまにおぼえます

なあーに」

がある。謎々とは、万国共通なものである。この謎々に対し、ある学生が「手話」と答えた。この答でも間違いではないといえそうだが、答は「山彦」である。こだま現象を山の神が答えるものとしてとられた語が山彦であるが、スウェーデンでも日本でもつうじる謎々だろう。

謎々、音声言語で発したものを、耳でうけとり、頭・心で考え、口から言葉で答える。このような一連の行為、今の学生にこそ求められているのではないかと思い、授業の導入に用いていたしだいである。

さて、二〇〇五年前期、保育科一年生に、東アフリカ・マサイ族の謎々を問い合わせた。マサイ族は、東アフリカのケニア南部か

らタンザニア北部一帯にかけて住むサバンナの遊牧民で、牛のふんでつくった家に住み、季節的に移動して、昔ながらの生活を続いている人達だそうである。遊牧民であるマサイ族の謎々は、『なぞなぞの本』（福音館書店編集部編 一九八二年発行）には9点とりあげられている。このうちの一つ、「一生のうちにいちばんたいせつなものなあーに」

「一生のうちにいちばんたいせつなものなあーに」

と問うてみると、表①のような答が、学生からかえってきた。

マサイ族の人達の答は「胃袋」であるが、学生からは、このような多種多彩な答が導きだされてきた。毎年思うことであるが、18歳の女子学生達の大きいなる可能性を感じたしだいである。

### 3 「桃太郎」から語り聴かせへ

二〇〇五年前期 「語り聴かせ入門」（保育科一年 受講者27人）は、昔話「桃太郎」を主材料に授業を展開してみた。すると思わぬ展開を生みだし、昔話「桃太郎」のまた違った魅力へと辿りつけたようと思うのである。

4月30日、桃太郎は「五大お伽噺」の一つであることを提示した上で、自分にとつて後の4話の昔話は何かを問うてみた。すると、次のような答が、学生達からかえってきた。

表1 「一生のうちにいちばんたいせつなものなあーに」に対しての答

クラス	AB (木曜4限授業)	CD (月曜1限授業)	EF (木曜2限授業)
複数解答	友達21 (おともだち・ダチ各1ずつも含む) 家族9 命8 笑顔5 おかげ3 (金1含む) 自分2 自分を支えてくれる人2 彼氏2 出会い2 (9とおり)	友達30 (マブダチ1含む) 家族10 命いのち6 せいめい生命3 食物たべもの3 心臓2 親2 時間2 (8とおり)	友達23 (友2・おともだち ダチ各1含む) 家族7 愛4 命3 時間3 LOVE2 出会い2 思い出2 (8とおり)
単数解答	相手 仲間 親友 人々 パートナー Friend 親 親などのまわりの人々 運命の人 (彼の名前) Family 今まで出会った人達 強い思い ココロ 信頼 世界の全て 愛 コミュニケーション 思い出 勇気 現実 いま たべもの 感謝 感謝するコト 人生 (26とおり)	生きる 生きること 自分のまわりのすべての命 自分の命 自分の人生 自分を信じる心 現在(いま) 現在 人 人と絆 出会えた人たち 支え 母 自分を生んでくれた親 家族と友達 親友 友情 仲間 出会い 信頼 会話 笑顔 お金 人間 (24とおり)	生きるということ 情 愛情 愛し愛されるコト 成長 夢 夢(目標) 愛と平和 地球 幸せを感じる心 相手を思う心 人ととの心 何かを愛する心 思いやる心 気持ち 思いやり 喜怒哀楽 悲しみ喜び 友情 話すこと つねに学んでゆくこと 成長 自分 生命 myself 自分自身 その時その場所で自分がしていること 親 自分に関わりのある人たち 周りの人々 長い一生の中で出逢った人たち 今まで会ってきた人達 家族・友達など私を陰から支えて くれている人たち 周りにいるミンナ お父さんお母さんへの親孝行 昼飯 弁当とお茶 空腹を満たすお弁当 生き物 (39とおり)

表② 学生の思った「桃太郎」以外の五大お伽噺

順位	昔話 「桃太郎」以外の話	人数	順位															
			11位	8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	21人	15人	13人	12人	10人		
1人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐやひめ (7) 一寸ぼうし (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐやひめ (7) 一寸ぼうし (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (9) 花さかじいさん (4)	かぐや姫 (14) 一寸法師 (5) 浦島太郎 (5) 金太郎 (3) 花さかじいさん (4)	21人
2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	うさぎとかめ サルカニ合戦・さるかに合戦	2人
3人			3人			4人			3人			4人			3人			4人
4人																		

注・あえて日本の昔話と問い合わせなかつたため、外国の昔話も入っている。

・昔話名の表字については、学生一人ひとりの表音をする際の表字ということを意識して表現してもらつた。

「五大お伽噺」とは、日本の代表的な昔話五つのことである。「花咲爺」「勝々山」「舌切り雀」「猿蟹合戦」そして「桃太郎」である。学生の認識も、ほほこの五つの昔話に重なつていて。しかし女子学生ということからか、竹取物語を含むと「かぐや姫」の昔話が22人と、ほとんどの学生が、五大お伽噺の一つとしてとらえていた。さて、日本の昔話の色々を、五大お伽噺を想起してもらつた上で、次に、「桃太郎」の粗筋を各自に書いてもらつた。

「桃太郎」は、『日本昔話大成』「昔話の型」（第11巻資料編・昭和55年角川書店発行）「桃の子太郎」にあるように、「1婆が（a）川で（箱に入ってきた）桃を拾う。（b）山で桃（栗）を拾う。それから男児が生まれる。」

2その子が猿・犬・雉に団子を与えて協力者として鬼が島に行き、鬼を退治して宝物を得て帰る。（家が富む）を、話の構成要素とする昔話である。つまり、

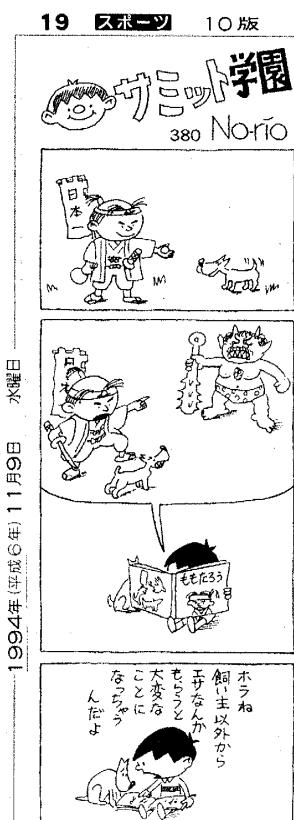


と、さらに構成要素を細分化していく。その際、学生達の記憶の糸をたぐりよせるため、三つの資料を提示してみた。

資料①『朝日新聞』4コマ漫画「サミット学園」380

4コマ目のせりふ部分をふせ字にして、「桃太郎」の粗筋を想い

起こす素材としてみた。



1994年(平成6年)11月9日 水曜日

資料②

川崎洋の『だだずんじやん』(いそっぷ社 1001年発行) 中、

一つの詩

資料②のような形で学生には提示してみた。学生達は、ふせ字になつてている部分を自分なりに考えてみると、また一つ「桃太郎」へと近づけたようである。

「でるでる モモタロウ」

ババ川へ洗たくに 家 をでる  
ジジ山へしばかりに 家 をでる  
ババ 川ぎし にでる  
川上からモモが まかり でる  
モモの中から赤んぼうが はい でる  
名前はモモタロウと とどけ でる

ジジババかわいくて な でる な でる  
その力 ぬきん でる

鬼をやつつけにいくと 申し でる  
キビダンゴふろしきから はみ でる  
サル・イヌ・キジおともを 頼い でる  
鬼が島で鬼たちが飲んで さわい でる  
サルはひつかくことに ひい でる  
イヌはかみつくことに ひい でる  
キジはつつづくことに ひい でる  
それぞれ ちようし がでる  
鬼の親分の目に なみだ でる  
モモタロウ勝利を かな でる  
いらい鬼は人の心に すん でる

注

① □ はふせ字とし、自分の「桃太郎」を想い起こす素材とした。  
② 川岸 (川に沿った両側の地。「河岸」とも書く)

- ・ 罷り出る (① 「貴人の前から」退いて帰る。② (あつかましく)
- ・ 人の前に出る
- ・ 這(い)出る (這つて、外に出る)
- ・ 届(け)出る (何か事(変更)が有った場合に、役所(の上役や組織体に正式に届ける)
- ・ 撫(なで)る (そのものに触れた指先や手のひらを何回か表面に沿つて軽くある方向に動かして、有るか無きかの刺激を与える)
- ・ ぬきんてる (「抜き出る」の変化) 他のものに比べてひときわすぐれ(てい)る)
- ・ 申(し)出る (意見・希望・要求などを自分から言って出る)
- ・ 食(み)出る (はみだす (食(み)出す・収まるべき枠の中に收まらず、外へ出る) のやや改まつた表現)
- ・ 願(い)出る (願いの事柄を申し出る)

秀れる（他が及ばないほどすぐれる）  
奏れる（琴・バイオリンなどを弾（ヒ）く）  
住む（人が決まった場所で暮らす。「広義では、動物についても言う」「棲む」とも書く）

その際、この詩のタイトル部分「〇〇〇モモタロウ」も、詩本文から見出してもやつてみた。すると、その4字部分を

ジジババ リアルな 『でる』 いいひと

つよいぞ がんばる ガンバレ こわい

略された かんかつ 今も昔も よろこぶ

鬼たちと 鬼たいじ モモ太郎 （以上1人）

なかよし 日本一の（以上2人） でるでる（5人）

受講者中一人が、どうしてもわからないと答える者がいたが、25人中5人が、川崎洋本人がつけたタイトル「でるでるモモタロウ」へと辿りついた。

### 資料③

#### 明治44年『尋常小学唱歌』（一）「ももたろう」（文部省唱歌）

岡野貞一 作曲  
安田文男 編曲

- 1 ももたろうさん ももたろうさん  
おこしにつけた **きびだんご**
- 2 やりましよう やりましよう  
これから **おにの** せいばつに  
ついて いくなら やりましよう

そして最後に、なんと6番まである文部省唱歌「ももたろう」を□部分ふせ字にし、想いだしてもらつた。明治44年の尋常小学唱歌であるにもかかわらず、平成の女子学生も歌詞を想い起こし、かつ歌えたのである。

歌詞の中「ぶんどりもの」は、なかなかでてこなかつた。しかし、「予算を分捕る」「敵の戦車を分捕る」「分捕り品」などの、言葉の使用例を出し、かつ「他人のものを奪いとる」ことであることを提示してみると、やつと、その表現へと辿りついた。日本語、生きた言葉として、次の世代の子ども達へと彼女達からも語り伝えていくほしと、痛感したしだいである。

以上、資料①②③の検討もとおして、自分なりの「桃太郎」の粗筋を表現してもらつたしだいである。

さて、ここまでの中の個々の検討を経て、最後に、ある保育士

の語る「桃太郎」を語つてみた。昔話「桃太郎」が、こう語られなければという形ではないのだが、一つの見本としてである。文字としての提示はせず、私が語るということをおして、学生の心にきざんでもらつたしだいである。

#### 資料④ 保育士の語る「ももたろう」

むかし むかし、あるとこに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは、毎日、山へ木を切りに行きました。おばあさんは、川へせんたくに行きました。

むかし むかし、ある日のこと、川の上のほうから大きなももが、どんどんぶらり、ぶらり、と、流れできました。

おばあさんは、大喜びで、「大きいもも」つちへい、じつちへい」と言いながら、流れてきたももを、すくい上げると、おじいさんと一緒に食べようと、持ち帰りました。

「おじいさん おじいさん、おいしいももがあります」と、山から帰ったおじいさんに言いました。

「おお、それはありがたい」

おじいさんとおばあさんが、ももを割って食べようとすると、なから「フツー」と、かわいい、かわいい、○○ちゃんみたいな男の子が出てきました。

おじいさんとおばあさんは、大喜びで、ももから生まれたから「ややたらう」と名前をつけました。

おもたろうは、何でも食べて、どんどん大きくなりました。

ある日のこと、おもたろうは、鬼が出て困っている人の話を聞き

ました。そして「おじいさん、おばあさん、私はこれから鬼ヶ島へ鬼たいじに行つてきます。どうか、お弁当をつくりください」と、お願いしました。

おばあさんはおじい、きびだんをたくさんつくりました。おばあさんのつくるきびだんは、日本一です。

「氣をつけて行くんだよ。」おじいさんとおばあさんは、いつもでもももたろうを、見送りました。

ももたろうは、鬼ヶ島をめざして元気に歩き出しました。

しばらくいくと、「ワンワン、ももたろうさん、ももたろうさん、おじいにつけたきびだん」、私に一つくださいな

「私についてくるならば、日本一のきびだん」、一つ分けてやりましょ

ももたろうは、犬に一つ分けてやりました。

それから、犬をつれて歩き出しました。

すると今度は、猿が出てきて犬と同じことを言つて、きびだんを一つもらいました。

ももたろうは、犬と猿をつれて、また歩きはじめました。すると「バサバサバサ、キキッキ」と、きじが出てきて、犬や猿と同じことを言つて、きびだんをもらうと、ももたろうの後について鬼ヶ島をぬぞし歩き出しました。

そして、とうとう鬼ヶ島に着きました。

きじは鬼の様子を見に飛んでいき、猿は門を開けようとスルスルと中に入つていきました。

門が開くと、ももたろうと犬は鬼をめざしてかけ出しました。

きじは鬼をつつき、猿はキャツキャツとひつかき、犬はかみつき、ももたろうは「エイサー、エイサー」と鬼と戦い「まいったかあ

と鬼の大将をやつつけました。

ももたろうは、鬼が取り上げた宝物を持つて犬や猿、きじと一緒に、おじいさんとおばあさんが待つ村に帰っていきました。

一つの昔話「桃太郎」を語るには、色々な方法がある。しかし、このような過程もあっての子どもとの出会いがあると、語り聴かせへと辿りつけるのではと思う。一つの提案として受けとめてほしい。

#### 4 「ねずみの嫁入」から語り聴かせを

「ねずみの嫁入」は、『日本昔話大成』「昔話の型」では「土竜の嫁入」である。ねずみではなく土竜なのである。

「土竜の嫁入」とは、「1鼠（土竜・石屋）が、娘を最も偉い者に嫁入りをさせようとする。2太陽・雲・風・壁（岩・石・土手）を候補者にあげるが、結局鼠が最も偉いことになる」

という構成要素をもつた昔話である。

さて、「ねずみの嫁入」を語り聴かせの素材としてとりあげるのに、次のような五つの過程が考えられる。まずは、

①自分のしつている「ねずみの嫁

入」の粗筋を書きあげてみよう。

②その際、この昔話には8つの登場する色々が、必要である。その8つとは、ねずみが四体、そして理想として智者がしに登場するのが四体である。つまり、

お父さん鼠・お母さん鼠・その娘鼠、そして結局嫁入り相手となる若者鼠

太陽・雲・風そして壁（岩・石・土手・土蔵等の場合もある）の八体であることを確認しておきたい。

③さて、粗筋を書きあげたら、タイトル・題名をつけてみよう。

「ねずみの嫁入」「世界一しあわせなお嫁さん」「ねずみにふさわしい相手」「世界一しあわせなお嫁さん」

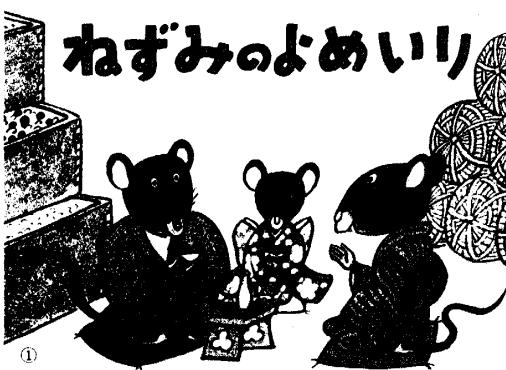
等、色々であろうが、自分なりに表音へとつながる表字を意識して、タイトルをつけてみよう。

④次に、「ねずみの嫁入」をささえる語り伝えられてきたテーマとは、何であろうかも考えてみよう。

この昔話のキーワードをさがしてみると、「幸運（幸福）」「運命」「身近」

であろうか。幸運は身近な所にあり、分相応が一番で高望みはしないほうがよい。結局、鼠は鼠であって、運命は決まっているということであろうか。人は、この昔話のテーマをこんなふうに表現した。

隣りの芝は青くみえるが、実は幸運は一番身近な所にあることを気付かないものである。そして一番良い組み合わせは、実は運命の赤い糸でつながっていて、最初から決まっているものである。自分の素晴らしさを知り、自分の身近に良いものがあることを知らう。



・鼠は鼠である。結婚するということは、はじめから運命により決まっているようなもので、見逃してしまいそうな日常の中に幸せはころがっていることに気付いてほしいということ。

であると表現してくれた。

⑤粗筋・タイトル・テーマを自分なりに表現した上で、各地に伝承されている昔話そして再話作品も読みこんでみよう。

わが宮崎県にも、「石屋がいちばん」という題名で、次のような昔話が語り伝えられている。

「石屋に息子ができる、それが三代目の孫じやつたげな。

その孫が、

「石屋はすかんが、石屋はせん」というたげな。

そこで、爺さんが、和尚さんとこさね行つて、

「うちの孫は石屋をせんというが、石屋をする」つげち(説教)してくだ

さい

というたげな。そこで和尚さんが石屋の孫を呼んできいたげな。

「おまえは石屋を好かんごついうが、なになつてみよ。石屋とい

うい」

「そんなら和尚さん、わたしはその石屋になります」

「それみよ、やっぱり石屋がいちばんいいじやろがな」

そこで三代目の孫も、親ゆずりの石屋になつたげな。

(清武町 石山吉五郎の語り)

また、私の手元には、現在8つの再話作品がある。

紙芝居 2点

『ねずみのよめいり』(1、2同タイトル)

1 (作・堀尾青史 画・久保雅勇 昭和60年 童心社発行)

2 (文・福島のり子 画・エム、ナマエ 昭和61年再版 教育画劇発行)

「そんならわたしは、その殿様になります」

「てんがになつてみよ、てんがの上にやお日さまという人がおる

が

「そんならわたしは、そのお日さまになります」  
「なにお日さまがいいかろうか。むしろ干しちやひやがらんとい  
うて、雲が出てくるが」

「そんならわたしは、その雲になります」

「なに雲がいいかろか。東から西から風が吹いてきて、思(思つよう)うびつに  
動かれもせんぞ」

「そんなら和尚さん、わたしはその風になります」

「なに風がいいかろか。西にも東にも大きな岩があつて、西へい  
けばびん(重)たをこづき、東へ行けばむこうづらを打つがよ」

「そんなら和尚さん、わたしはその岩になります」

「どうしてまた岩がいいかろうか。岩になつてみよ。石屋とい  
えらいやつがおつて、毎日毎日、こつちんこつちん、切られるが  
よ」

「そんなら和尚さん、わたしはその石屋になります」

「それみよ、やっぱり石屋がいちばんいいじやろがな」

「そんならわたしは、その殿様になります」

「なに殿様がいいかろうか、その殿様の上にはてんが(天下)という人が  
いなさるぞ」

絵本 6点

3 『ねずみのよめさん』  
(小野かおる 再話・画 1988年 福音館書店発行)

## 4『ねずみのよめいり』(4~8同タイトル)

(いもとようこ作 1990年)

フレーベル館・キンダーブック

5(渋谷勲・文 長谷川知子・絵)

1991年 チャイルド本社発行

6(末吉暁子・文 深沢邦朗・絵)

1994年 チャイルド本社発行

7(薫くみこ・文 平きょうこ・絵 1995年 小学館発行)

8(岩崎京子・文 二俣英五郎・画 1996年 教育画劇発行)

の8点である。絵本・紙芝居を聞き手に対して語るのを、一般に読み聞かせとよぶが、読み聞かせを一步ふみこんで自分のものとして語る手法として、「語り聞かせ」を提案してきた。読み聞かせを語り聞かせへともつてゆくためには、「ねずみの嫁入」で検討したような過程も必要だと思う。

語り聞かせを成立させるための一つの手立てとして、「桃太郎」

「ねずみの嫁入」から提案してみた。語り聞かせを実現するために絵本・紙芝居の読み手から、語り手へと自分自身を高めてゆく必要がある。それでは語り手を実現するためには、何を高めてゆけばいいのであろうか。その根幹は、三つのごかんをみがきつづけてゆくことである。この三つのごかんとは、

五感(人間が外界の刺激を感じる事が出来る五種の感覚。視覚・聴

覚・嗅(臭) 覚・味覚・触覚)

五官(五感を起させる五官の感覚器官。目・耳・鼻・舌・皮膚

(肌)

そして

語感(言葉の持つ中心的な意味のほかに、その言葉からくみ取られるきれい・きたないなどの感じや、相手にどのように受け取られるかという響きなどをも含めたデリケートな用法)のことである。

そして、語り手本人も、三つのごかんみがきと並行して、自分の声が、きき手にどう聽こえるかもつかんでおく必要がある。テープレコーダーに自分の声を録音し、きき直してみると、どうも耳でききとった声と違うと感じた経験をもつてている人、かなりいるのではないか。ということで声質判断をしてみ、自分の声のきこえ具合をつかんでみよう。その際、誰か他の人に自分の声をきき取ってもらい、分析してみるのがよいと思う。声質判断の基準として、私は今のところ17の視点を提案している。その17とは

大中小	強中弱	高中低	緩中急	太中細
明中暗	清中濁	温中冷	鈍中銳	重中軽
厚中薄	穩中激	速中遲	優中恐	濃中淡

甘中辛 深中浅

である。この「中」とは普通ということであるが、自分なりの普通の中心軸をさだめた上で、さてどのようにきこえてくるかの判断をしてほしい。自分の声が、相手にどのように聽こえるかを知ることは、語り聞かせの重要な要素の一つである。

自分の声質をわかつた上では、次には、日常的な声みがきの一つとして、发声練習をするとよい。发声練習の方法としては、

アエイウエオアオ	カケキクケコカコ
サセシスセソサソ	タテチツテトタト
ナネニヌネノナノ	ハヘヒフヘホハホ
マメミムメモマモ	ヤエイユエヨヤヨ

ラレリルレロラロ ワエイウエヲワヲ

を用いている。母音アイウエオを基本として、短音・長音の声だしは、語る際の「わかりやすくはつきり ききとりやすく」へ必ずつながってゆく。日々の声みがきが、きき手の前にたつた時、力を發揮してくれるのは、もちろんある。「語り聴かせ入門」「総合演習」のような少人数授業では、毎授業時に发声練習をおこなっている。どちらの授業とも半年ではあるが、学生達の声、目にみえてよくなるようになつてきている。

## 5 『アフリカのふくふく』を語るために

岩村和朗の絵本『アフリカのふくふく』を、アフリカを語り手が理解した上で、子どもへと語ると、語り聴かせへと近づけるのではないだろうか、との提案をしてみたい。

授業で、学生と『アフリカのふくふく』を読みとる際、先ずは次のように質問をしてみた。その質問とは、

「アフリカについて しつていますか

アフリカは（ ）ヶ国ですか

想い浮かぶことば（表現）は何ですか  
想い浮かぶ動物は何ですか

の三つである。

私達は、アフリカをどのようにとらえているであろうか。意外と知つているようで、知らないことがわかる。以下は、一〇〇五年前期「読書と豊かな人間性」（人間文化学科2年29人受講）での結果をもとに、この三点についてまとめてみた。

一つ目の質問、「アフリカは何ヶ国から成り立っていますか」に對して、その国数を、10 12 22（2人） 23 25 32 36（3人）42 48（2人） 49 50（2人） 51 53（3人） 54 55ヶ国であつた。アフリカの実際の地図を見てもらつた上での結果だが、余りにも幅がありすぎる。しかし、この結果がアフリカに対する一つの認識といえよう。よく、私達は外国人の人達が日本のことを知らない、知つてくれないことに憤りを感じるが、私達自身そのものにもその姿勢があるように思える。アフリカは53ヶ国である。ちなみにアイウエオ順に列記してみると

「アルジェリア アンゴラ ウガンダ エジプト エチオピア エリトリア ガーナ カーボベルデ カメルーン ガボン ガンビア ギニア ギニアビザオ（ウ） ケニア コートジボア（ワ） ルコモロ コンゴ民主共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ ザンビア シエラレオネ ジブチ ジンバブエ スーダン スワジランド セイシェル 赤道ギニア セネガル ソマリアンザニア チェニジア チヤド 中央アフリカ トーゴ ナイジエリア ナミビア ニジェール ブルキナファソ ブルンジ ベナン ボツワナ マダガスカル マラウイ マリ 南アフリカ モーリシャス モーリタリア モザンビーク モロッコ リビア リベリア レソト ルワンダ」

である。このように整理してみると、アフリカにはヤ行とワ行の頭音で始まる国はないという、思わぬ発見もしたしだいである。

また、アフリカを53ヶ国と認識した上で、さて、どんな動物がとうことも想い浮かべてもらつた。以下、とりあげられた人数順に列記してみると、先ず複数回答としては、

\*ゾウ（ぞう・象・アフリカ象の表字もあつた。以下（ ）内は

表字の違いを表す) 20人

\*ライオン (らいおん) 19人 \*キリン (きりん) 17人 \*シマウマ (しまうま) 9人 \*サイ・ハイエナ各7人 チーター・トラ (とら) 各6人 \*ヒョウ4人 アリ・ワニ・カバ・ウシ (牛) ヌー各2人

であった。そして、一人ずつであつたが他にあがつた動物は、

アリクイ バイソン イボイノシシ \*ガゼル ハエ タカ 何種類もの鳥 カエル ウナギ ヘビ 毒グモ サソリ だちようらくだ サル

(※印は『アフリカのぶくぶく』登場動物)と、計29種類の動物他がであった。なお、表字の違いも( )内には示した。私は、学生に対して、何かを表字する際、表音した時どのように届くかも考えて表現してほしいとの希望を、常に伝えていた。その結果としての、さまざまな表字がある。

そして、ことば(表現)として想い浮かぶものはと最後に問いかけると、こちらも多種多彩であった。

暑い2人 あつい 熱い 広大で暑い ジリジリ 大自然! 自然の恵み 自然がいっぱい 広いそうげん 草原 広原 大草原 砂漠 さばく サバンナ2人 無限の大地  
雨季 太陽 地平線 夕日がキレイ 景色がキレイ  
広い砂漠を走ってゆく動物たち 野生動物の楽園 動物 野性  
弱肉強食 絶滅しきけの動物を保護しているところ ジャングル  
サファリパーク 多民族 民族 マサイ族2人 エジプト  
だく点がつくようなことばが多い感じがする スワヒリ語2人  
英語3人 フランス語2人 ケニア語 アフリカ語 アー ウー  
黒人 黒人さん 奴隸 植民地 アパルトヘイト ドレッド

危険地帯 テントで生活している 移動しながら生活してそういうコロニー コンガ 音楽 タロイモ じゅもん 占い  
陽気 ダイナミック! 大きい! パワフル!  
とあがつてきた。受講者29人の内訳は、英語コミュニケーションコース12人・国語国文コース14人・文化ビジネスコース3人だが、この学生達の意識あつての結果といえよう。この表現、他の保育科や音楽科にきいてみると、違つた様相をみられるかもしれない。  
しかし、このようにアフリカの土地に53ヶ国が存在し、どんな動物が居、どんなイメージをもつてゐるかを、自分なりに描きだした上で、『アフリカのぶくぶく』を語ると、きき手へと伝わるもののが違うのではないかと思う。どうだろうか。  
また、もう一つ、マサイ族の「謎々なあーに」9つからも、アフリカとはどんな所かのイメージを創つてもらった。  
①わたしが口笛をふくと みんな森からはしりでてくる なあーに  
②牛が殺されるとき最初に肉を食べるもの なあーに  
③日夜やすまないもの なあーに  
④野火に焼かれないもの なあーに  
⑤この世でいちばんよくぱりなやつ なあーに  
⑥この世でいちばんはやいもの なあーに  
⑦一生のうちいちばんたいせつなもの なあーに  
⑧牛が生きているとみえ 死ぬとみえないもの なあーに  
⑨わたしはシーツを一枚もつてる 一枚はしいてねるため もう一枚はかけるため なあーに  
さて、それぞれアフリカに住むマサイ族に想いをはせ、謎々をといてみよう。

答は、①雨 ②ナイフ ③泉の水 ④草のないところ ⑤火 ⑥視線 ⑦胃袋 ⑧牛のわき腹 ⑨天と地 である。マサイ族の世界観からも、アフリカ、イメージできよう。そして、これらの謎々を、私共が生活してゆく上でも、いかしてゆきたい視点がいっぱいふくまれているように思う。



『アフリカのぱくぱく』(1981年 偕成社発行)は

「ぱくは ぱくぱく。ぼく、  
なんでも おおきく できる  
んだ」 ぱくぱくが ぱつくら  
の きの なかから かおを  
だして いいました。ぱく  
ぱくには ふしぎな ちから  
が ありました。くちの は  
りで ぱくーんと さして、  
なんでも おおきく する」  
とが できるのです。ぱくぱ  
くは それが じまん した  
くて しかたありません」

という架空の生き物ぱくを主人公とした、アフリカを舞台とした物語である。以上のような検討を語り手が経た上で、きき手の前にたつと、また違った語り聞かせが出現してくると思う。

## 6 まとめとして

語り聞かせとは、さまざまなお話を自分の血・肉としつつ、きき手の前にたつことである。

二〇〇五年前期「児童文学」(保育科一年220人受講)にて、二ヶ月程授業体験を経て、さて絵本を聞き手にとどけるためのポイントはと問い合わせてみると、次の35の視点がかえってきた。

1 体全体をつかって語る。

2 絵本の物語内容を自分のものとし、熟読しよう。

3 絵本を吟味し、すてきな絵本との出会いをさぐろう。

4 絵本にとって大事なことの一つは、絵本に隠された真実を読み解くことである。

5 絵や表びようし裏びようし扉びようしにインパクトのある絵本を選んで語ろう。

6 子どもの頃、自分が好きだった絵本を語つてみよう。新しい絵本もいいけれど、自分が小さい頃読んだ絵本も試してみる。自分にとつては古いけれど、子ども達にとつては初めて見、新鮮にうつるかもしれない。

7 私の声で、私の心で語る。

8 子どもが絵本のおもしろさを、他の人に教えたいと思えるよう語る。

9 子どもが本好きになるように、語りかけてあげる。

10 その子にしかない感じ方、感想や思いを大切にして語つてあげる。

11 子どもの目がキラキラするように反応をしつかりと見て、意味のある一冊となるように語る。

12 子どもがいくつになつても忘れられない、一生心に残るくらいの気持ちをこめて語る。

13 本の内容、どちら方は人それぞれなので役に入りこまないで、素直な気持ちで、まっすぐ子供の心の奥に語りかけるように語る。

- 14 子どもが絵本の世界に入つて楽しい時間をすごせるように、子どもと一体となつて語る。
- 15 子どもの観やすいように、目みて語る。
- 16 子どもが求めれば同じ絵本でもくり返し語つてあげる。同じ絵本でも、環境や語り方、語る人聽く人の気持ちで、どちら方が大きくかわります。
- 17 子どもが理解するのではなく『感』じる語り方をめざす。
- 18 子どもの心の目と自分の目がつながるように語る。
- 19 語り手も楽しみながら、絵本の世界に入つて語る。
- 20 自分自身が今もつている精一杯の力で語る。
- 21 どんな時でも自分の中にゆとりを持って一冊一冊語る時間を大切にしよう。
- 22 語り手も一ページ一ページごとに心の中で感想を描いていき、絵本との対話を感じながら語る。
- 23 絵本が動画のように、子どもの頭（心）に流れるようにイキイキと語る。
- 24 語り手も童心にかえり、素直な気持ちで、まつすぐ子どもの心の奥に語りかけるように心がけよう。
- 25 子どもの気持ちになり、子どもの目線で子どもにもどつて語る。
- 26 子どもの小さな表情にも気づくよう、表情の吟味をしながら語る。
- 27 子どもに自分の意見をおしつけないで語りかけよう。
- 28 声は聞きとりやすく、はつきり、わかりやすく、ゆっくりとに気をつけて、本の中の動きが聞き手に伝わるように語る。
- 29 お父さん・お母さんの心のこもった声のぬくもりが、子どもの優しい心を育み、絵本の世界に導きます。
- 30 めくるタイミングも考えてみよう。絵本をめくる間を大事にし、間の時に子どもの表情を観て、子どもの気持ちを感じ、聴き手のペースにあわせて語る。
- 31 擬音は、できるだけ効果的につかって語ろう。
- 32 子どもは絵本の世界に浸っているのですから、『おわり・おしまい』は言わないでください。
- 33 子どもが絵を観やすいように、絵本の持ち方に気をつけよう。
- 34 絵本を語る練習をする時は、自分の子どもの頃を想い出しながら練習してみよう。
- 35 絵本は、子どもと大人のかけ橋・宝物となる存在です。
- 私は、「18歳のかたりきかせ」と、この35点に名づけてみた。いかがだろうか。
- また、保育科2年生には、今までの紙芝居体験をふまえて、自分のポイントをと問いかけてみた。すると、次の25点があがってきた。
- ・紙芝居を愛し、子ども達にも愛してもらえるようにする。
  - ・紙芝居を体丸ごとでうけとめられる雰囲気を創る。
  - ・語り終わった後、無理に感想を聞こうとせずに、子ども達が思ったことを自由に感じられるような雰囲気づくりをする。
  - ・色々な物語を語ることで、自分の中の語りの幅を増やす。
  - ・わからない言葉やあいまいな言葉は、前もつてしらべておく。
  - ・ぬく速さぬくタイミングを、事前に確認しておく。

- ・舞台がもしない時は、紙芝居のおく位置（ひざ、机、椅子等）を、その場にあわせて考える。

### えらぶ

- ・今の子どもが、興味関心をもつているものを把握し、子どもの気持ちによりそえる内容を選ぶ。
- ・子どもの目線にあわせ、子どもの今現在の興味関心をつかんだ上で選ぶ。
- ・子どもの発想や気持ちが高まって、生活の中で活かしていくけるものを選ぶ。

### 語るよむ演じる

- ・観る子どもの気持ちになつて語る。
- ・子ども達のつぶやき思いをうけとりながら語る。
- ・子どものペースをつかみゆつくり物語を進めていく。
- ・押しつけの語り方にならないように、笑顔で子ども心をもち楽しむことを忘れずに語る。
- ・子どもと楽しみながら、リズム・テンポ・スピード・ペースを考えながら語る。
- ・子どもの心にかえり、子どもの心に届けることを意識して語る。
- ・子どもの心をつかむ事が出来るよう心がけながら語つていく。
- ・ぬく速さやぬき方を考えながら語る。
- ・子どもの興味をひく幕紙をつくり、「これから紙芝居が始まりますよ」という感じで演じる。
- ・目でも伝わるように、自然体で、自分の声質を活かして語る。
- ・語り手ばかりが紙芝居に入りこまず、聞き手と語り手がひとつになれるよう进程していく。
- ・始まり、終わり、話の内容を大切にする。

- ・間は紙芝居の支持どおりに上手にとつていく。
- ・語り終わった後も、物語の余韻を残し、次への期待をもたせる。
- ・伝えたいことが伝わるよう、心で伝える。
- さすが保育科生活一年半の視点である。一年生35点、二年生25点で計60点、これらも今後の語り聴かせを考えるための一つとして、吟味しながらいかしてもらえればと思うのである。